

問1

次の記述は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法第4条第6項の条文である。

() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2箇所の (a) 内はどちらも同じ字句が入る。

この法律において「医薬品の副作用」とは、(a) が適正な (b) に従い適正に使用された場合においてもその (a) により人に発現する (c) をいう。

	a	b	c
1	一般用医薬品	使用方法	健康被害
2	許可医薬品	使用目的	有害な反応
3	一般用医薬品	使用目的	健康被害
4	許可医薬品	使用方法	有害な反応
5	一般用医薬品	使用方法	有害な反応

問2

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 本来、医薬品は人体にとって異物であるため、必ずしも期待される有益な効果のみをもたらすとは限らない。
- b 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡るが、そのすべてが解明されている。
- c 検査薬は人体に対して使用される医薬品ではないので、人の健康に影響を与えるものとは考えられない。
- d 一般用医薬品は医療用医薬品と比べ、保健衛生上のリスクは相対的に低いと考えられるが、適正な使用が図られる必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問3

次の記述は、医薬品に対するアレルギーに関するものである。正しいものの組み合わせはどれか。

- a アレルギーを引き起こす原因物質となりえる添加物としては、黄色4号（タートラジン）、カゼインが知られている。
- b 鶏卵や牛乳にアレルギーがある人では、使用を避けなければならない医薬品がある。
- c 医薬品を使用してアレルギーを起こしたことがある人は、その医薬品に免疫ができているため、次回から使用しても問題はない。
- d アレルギーは個人の体質によるものであり、遺伝的な要素はないため、近い親族にアレルギー体質の人がいるかどうかには注意しなくてもよい。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問4

一般用医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品には、習慣性や依存性がある成分は含まれない。
- b 一般用医薬品は、作用が緩和であるため、飲食物との相互作用に注意する必要はない。
- c 医薬品の販売等に従事する専門家が、医薬品の購入者に対して十分説明すれば、購入者は、添付文書を読まなくてよい。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者の理解力や医薬品を使用する状況等に即して説明しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問5

医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 生薬成分が配合された医薬品は作用が緩和であるため、食品によってその効き目が増強されることはない。
- b アレルギー用薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、かぜ薬等では、成分や作用が重複することが多く、通常、これらの薬効群に属する医薬品の併用は避けることとされている。
- c 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
- d 一般用医薬品は、購入者が自ら選択し使用するものなので、医薬品の販売等に従事する専門家は、飲みあわせについて説明をする必要はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

問6

次の記述の（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

なお、2箇所の（ a ）内はどちらも同じ字句が入る。

酒類（アルコール）は、主として（ a ）で代謝されるため、酒類（アルコール）をよく摂取する者では、その代謝機能が（ b ）ことが多い。その結果、（ a ）で代謝される医薬品は、通常よりも代謝されやすくなり、体内から医薬品が速く消失して十分な薬効が得られなくなることがある。

また、（ c ）に薬効があるもの場合には、作用が強く出過ぎることがある。

	a	b	c
1	肝臓	低下している	老廃物
2	肝臓	高まっている	代謝産物
3	腎臓	低下している	老廃物
4	腎臓	高まっている	代謝産物
5	肝臓	高まっている	老廃物

問7

高齢者の医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品の使用上の注意において「高齢者」という場合には、おおよそ60歳以上を指す。
- b 高齢者は、基礎疾患を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化する場合がある。
- c 高齢者が一般用医薬品を使用する場合、定められた用量の下限で使用していれば作用が強くなることはない。
- d 医療機関から薬をもらっている場合でも、医薬品の販売等に従事する専門家が医薬品について情報提供を行えば、一般用医薬品を併用することは問題ない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問8

小児等の医薬品使用に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が低い。
- b 医薬品によっては、形状等が小児向けに作られていないため小児に対して使用しないことなどの注意を促しているものもある。
- c 小児は、肝臓や腎臓などの機能が未発達であるため、作用が弱くなる傾向がある。
- d 乳児は、基本的には医師の診療を受けることが優先され、一般用医薬品による対処は最小限にとどめることが望ましい。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問9

幼児に関する記述について、()の中に入れるべき正しい字句はどれか。

医薬品の使用上の注意等において、幼児という場合には、おおよその目安として()未満をいう。

- 1 2歳 2 5歳 3 7歳 4 10歳 5 12歳

問10

小児等の医薬品使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 5歳未満に使用される医薬品では、服用時に喉^{のど}につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。
- b 授乳婦が医薬品を服用した場合、吸収された医薬品が乳汁中に移行することが知られていても、通常の使用の範囲では具体的な悪影響が判明していないものもある。
- c 胎盤には、胎児の血液と母胎の血液とが混ざらない仕組みである胎盤関門があるため、母体が医薬品を使用しても、医薬品は胎盤関門を通過せず胎児へは移行しない。
- d 小児は、大人と比べて医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問11

妊娠前後の一定期間に使用する医薬品に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

通常の用量を超えて摂取すると胎児に (a) を起こす危険性が高まるとされている医薬品に (b) がある。また、(c) のように、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれのあるものがある。

	a	b	c
1	先天異常	ビタミンD含有製剤	便秘薬
2	後天異常	ビタミンA含有製剤	便秘薬
3	先天異常	ビタミンA含有製剤	便秘薬
4	後天異常	ビタミンD含有製剤	鎮痛薬
5	先天異常	ビタミンD含有製剤	鎮痛薬

問12

プラセボ効果に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用によらない作用を生じることがプラセボ効果という。
- b プラセボ効果は不確実であり、それを目的として医薬品を使用すべきではない。
- c プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化等が関与して生じると考えられている。
- d プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいものと不都合なものがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	誤	誤
5	正	正	正	正

問13

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品に配合されている成分は、品質の劣化を起こさない加工がなされているので、清潔な場所であればどこに保管してもよい。
- b 「使用期限」とは、未開封の状態では保管された場合に品質が保持される期限であり、いったん開封されると記載されている期日まで品質が保証されない場合がある。
- c 一般用医薬品では、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、使用期限から十分な余裕をもって販売等を行うことが重要である。
- d 医薬品の品質は一般的に、直射日光の影響を受けやすいが、温度や湿度に対しては安定である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問14

一般用医薬品の選択に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a WHOによれば、セルフメディケーションとは、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする」こととされている。
- b セルフメディケーションの主役は一般用医薬品の販売等に従事する者である。
- c 一般用医薬品を一定期間使用しても症状の改善がみられない人に対しては、医療機関への受診を勧奨することが望ましい。
- d 一般用医薬品で対処可能な症状の範囲は、妊婦の場合でも、通常の成人と変わらない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問15

医薬品の販売等に従事する専門家が購入者に確認すべき基本的なポイントに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 何のためにその医薬品を購入しようとしているか。
- b その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
- c その医薬品を使用する人として、高齢者が想定されるか。
- d その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問16

医薬品の販売等に従事する専門家が一般用医薬品を販売する時の情報提供に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 購入者とのコミュニケーション技術を身につける必要がある。
- b 購入者が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、コミュニケーションの機会が継続的に確保できるよう配慮する。
- c 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合は、コミュニケーションを図る必要はない。
- d 家庭における常備薬として購入される場合は、すぐに使用されないため、情報提供を行う必要はない。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問17

医薬品による副作用に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬品は、治療効果が発揮されている間は副作用が生じることはない。
- 2 副作用とは、死亡や日常生活に支障を来すような重大なものを指すのであって、眠気や口渇等の軽微なものは副作用に含まれない。
- 3 医療関係者が十分注意して医薬品を使用すれば、副作用は起こらない。
- 4 科学的に解明されていない未知の副作用が生じる場合もある。

問18

サリドマイド製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド製剤の中には、催眠鎮静効果のある一般用医薬品として販売されたものもあった。
- b サリドマイドは、血管新生を妨げる副作用があり、胎児の四肢欠損や心肺機能の障害等の先天異常が発生した。
- c サリドマイド製剤は、米国でアメーバ赤痢に使用が制限された時期があった。
- d サリドマイドの光学異性体のうち、鎮静作用はR体のみが有するので、R体のサリドマイドを分離して製剤化すれば催奇形性は避けられた。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

問19

HIV訴訟に関する記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

HIV訴訟は、(a)患者が、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)が混入した原料(b)から製造された(c)の投与を受けたことによりHIVに感染したことに対する訴訟である。

	a	b	c
1	白血病	血漿 ^{しょう}	アルブミン製剤
2	白血病	血小板	血液凝固因子製剤
3	白血病	血小板	アルブミン製剤
4	血友病	血漿 ^{しょう}	血液凝固因子製剤
5	血友病	血小板	アルブミン製剤

問20

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)の原因物質として正しいものはどれか。

- 1 アメーバ
- 2 プリオン
- 3 リケッチア
- 4 ウイルス
- 5 細菌

問21

医薬品に配合される成分のうち、抗ヒスタミン成分に分類されないものはどれか。

- 1 ブロメライン
- 2 フマル酸クレマスチン
- 3 マレイン酸カルビノキサミン
- 4 塩酸ジフェンヒドラミン
- 5 マレイン酸クロルフェニラミン

問22

ブロムワレリル尿素に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 服用時には、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。
- b 解熱鎮痛成分の鎮痛作用を助けるために配合される場合がある。
- c 依存性があるので、大量購入など不審な購入者等には販売を控える。
- d 妊婦が使用すると、胎児障害の可能性はある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

問23

鎮^{うん}暈薬（乗物酔い防止薬）の目的から考えて、主として配合される成分として適切でないものはどれか。

- 1 塩酸ジフェニドール
- 2 臭化水素酸スコポラミン
- 3 アミノ安息香酸エチル
- 4 無水カフェイン
- 5 ウフェナマート

問24

呼吸器疾患に用いられる医薬品の成分とその目的とする作用の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

	医薬品の成分	目的とする作用
1	臭化水素酸デキストロメトルファン	抗炎症作用
2	塩酸メトキシフェナミン	解熱鎮痛作用
3	ヒベンズ酸チペピジン	去痰 ^{たん} 作用
4	トラネキサム酸	抗炎症作用
5	塩化リゾチーム	抗アレルギー作用

問25

鎮咳去痰薬に配合される成分のうち、気管支を拡張することを目的とするものはどれか。

- 1 ハンゲ
- 2 塩酸ブロムヘキシソ
- 3 グアイフェネソ
- 4 塩酸エチルシステイン
- 5 塩酸トリメトキノール

問26

鎮咳去痰薬として用いられる漢方処方製剤のうち、カンゾウを含まないものはどれか。

- 1 麻杏甘石湯
- 2 五虎湯
- 3 麦門冬湯
- 4 柴朴湯
- 5 半夏厚朴湯

問27

呼吸器疾患に用いられる生薬成分とその生薬の素材（基原）の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

	生薬の成分	生薬の素材（基原）
1	キョウニン	キキョウ科のキキョウの根
2	シャゼンソウ	ユリ科のジャノヒゲの根の膨大部
3	オウヒ	バラ科のヤマザクラの樹皮
4	セキサン	ヒメハギ科のセネガの根
5	バクモンドウ	オオバコ科のオオバコの花期の全草

問28

次の医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リン酸コデインは、副作用として便秘が現れることがある。
- b リン酸コデインは、長期連用することで薬物依存につながるおそれがある。
- c リン酸ジヒドロコデインは、胎盤関門を通過しないので、胎児へ移行することはない。
- d 塩酸メチルエフェドリンは、麻薬性鎮咳^{がい}成分である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問29

次の医薬品のうち、中和反応によって胃酸の働きを弱めることを目的としたものはどれか。

- 1 炭酸水素ナトリウム
- 2 グリチルリチン酸ナトリウム
- 3 ケイヒ
- 4 ロートエキス
- 5 ジメチルポリシロキサン

問30

腸に用いられる医薬品に含まれる成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 硫酸ナトリウムは、心臓病を悪化させるおそれがある。
- 2 次没食子酸^{もっしょくし}ビスマスは、1週間以上継続して使用しない。
- 3 塩酸ロペラミドが配合された止瀉薬^{しや}は、食あたりによる下痢が適応対象となる。
- 4 酸化マグネシウムは、腎臓病の診断を受けた人では、高マグネシウム血症を生じるおそれがある。

問31

次の医薬品の服用方法のうち、その効果を高めるため適当なものはどれか。

- 1 炭酸水素ナトリウムを含む製剤を、炭酸飲料で服用した。
- 2 鉄を含む製剤を、緑茶で服用した。
- 3 ビサコジルを含む腸溶製剤を、牛乳で服用した。
- 4 ビスマスを含む製剤を、アルコールで服用した。
- 5 カルメロースナトリウムを含む製剤を、多量の水で服用した。

問32

強心薬に配合される成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 センソが配合された内服固形製剤は、よく噛み砕いて服用する。
- 2 ジャコウは、直接心筋に作用せず、強心作用を発揮する。
- 3 ゴオウは、末梢血管を拡張させ、血圧降下作用がある。
- 4 リュウノウは、中枢神経系の興奮を静める作用がある。

問33

次の強心薬に配合される成分のうち、有効域（治療濃度域）が比較的狭いため、一般用医薬品では1日用量が5mg以下となるよう用法・用量が定められているものはどれか。

- 1 ロクジョウ
- 2 センソ
- 3 シンジュ
- 4 ニンジン
- 5 ゴオウ

問34

高コレステロール改善薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a リノール酸は、末梢組織におけるコレステロールの吸収を抑える働きがある。
- b 大豆油不^{けん}飽和物（ソイステロール）は、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- c ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑える作用があるとされる。
- d パンテチンは、肝臓におけるコレステロール代謝を正常化する働きがあるとされ、LDL（低密度リ^{たん}ポ蛋白質）を増加させる効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

問35

生活習慣病に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 食事から摂取した糖からコレステロールは産生されないので、糖質を多く含む食品の摂取を控える必要はない。
- 2 生活習慣病のリスクの目安として、胸囲を測定する。
- 3 高コレステロール改善薬をしばらくの間使用しても改善が認められない場合、遺伝的又は内分泌的要因も疑われる。
- 4 高コレステロール改善薬は、結果的に生活習慣病の予防につながることから、^{痩身}瘦身効果を目的とした医薬品として用いられる。

問36

貧血用薬の配合成分とその作用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 銅は、鉄の代謝や輸送に重要なため、補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で投与される。
- 2 コバルトは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンEの構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で投与される。
- 3 ビタミンCは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態（ヘム鉄）に保つことを目的として投与される。
- 4 マンガンは、糖質・脂質・^{たん}蛋白質の代謝をする際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で配合される。

問37

ユビデカレノン（コエンザイムQ10）に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、ビタミンB群とともに働く。
- 2 血管の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって、血液循環の改善効果を示す。
- 3 成人では、中程度から高度な心疾患による動悸、息切れ、むくみの症状に用いられる。
- 4 肝臓や心臓にはほとんど存在しない。

問38

次の外用痔疾用薬の成分のうち、止血効果を期待して配合されているものはどれか。

- 1 塩酸プロカイン
- 2 マレイン酸クロルフェニラミン
- 3 酢酸プレドニゾン
- 4 塩酸ナファゾリン
- 5 塩化リゾチーム

問39

痔疾用薬を使用する際の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 痔疾用薬のうち坐剤及び注入軟膏は外用なので、成分が直腸で吸収されて循環血流中に入ることはない。
- b 痔疾用薬を使用していれば、生活習慣を改善する必要はない。
- c 一定期間使用しても症状が改善しない場合、肛門癌などの重大な病気の症状である可能性も考えられる。
- d 肛門部はもともと多くの細菌が存在しているが、血流量が乏しいため、それらの細菌によって感染症を生じることはほとんどない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問40

次の生薬成分のうち、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられるものはどれか。

- 1 キササゲ
- 2 ブクリョウ
- 3 ウワウルシ
- 4 カゴソウ
- 5 サンキライ

問41

女性ホルモン含有薬に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 エチニルエストラジオールは卵巣で産生される女性ホルモンである。
- 2 エチニルエストラジオールの長期連用により、出血傾向を生じるおそれがある。
- 3 女性ホルモンを含有した外用薬は、内服薬と異なり、成分が局所に留まって作用し全身血液中に移行することはほとんどないのが特徴である。
- 4 妊娠中の女性ホルモン成分の摂取によって胎児の先天性異常の発生が報告されている。

問42

婦人用薬として用いられる漢方処方製剤のうち、比較的体力がある人に適すとされるものであって、ダイオウを含むものはどれか。

- 1 加味道遙散
か みしょうようさん
- 2 桂枝茯苓丸
けいしぶくりょうがん
- 3 柴胡桂枝乾姜湯
さいこけいしかんきょうとう
- 4 当帰芍薬散
とうきしやくやくさん
- 5 桃核承気湯
とうかくじょうきとう

問43

抗ヒスタミン成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分は、ヒスタミンの働きを抑える作用以外に抗コリン作用も示す。
- b ヒスタミンの働きが抑えられると不眠になるおそれがある。
- c 塩酸プソイドエフェドリンは、抗ヒスタミン成分として用いられる。
- d メキタジンは、重篤な副作用として、まれにショック、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問44

次の医薬品のうち、鼻粘膜の血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることがを目的として配合されるものはどれか。

- 1 ベラドンナ総アルカロイド
- 2 グリチルリチン酸二カリウム
- 3 塩酸フェニレフリン
- 4 サイシン
- 5 塩酸ジフェンヒドラミン

問45

アレルギーに関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 外から体内に侵入した異物を抗体と言い、その物質を特異的に認識した抗原によって肥満細胞が刺激を受け、ヒスタミン等の物質が遊離する。
- b 肥満細胞は、特に皮膚・皮下組織、肺、消化管、肝臓に存在し、免疫機構の一端を担う。
- c アレルギー用薬に配合されている塩酸メチルエフェドリンは、依存性がある。
- d アレルギー用薬は、プロスタグランジンの働きを抑える作用を示す成分を主体に配合されている。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問46

次の表は、ある鼻炎用点鼻薬に含まれている成分の一覧である。

この薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

100mL 中	
マレイン酸クロルフェニラミン	500mg
塩酸ナファゾリン	50mg
塩化ベンザルコニウム	20mg
リドカイン	300mg

- a マレイン酸クロルフェニラミンは、ステロイド性抗炎症作用を示す。
- b 塩酸ナファゾリンは、血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる作用がある。
- c 塩化ベンザルコニウムは、殺菌消毒作用を示し、細菌、ウイルスに効果がある。
- d この点鼻薬は、過度に使用すると、かえって鼻づまりがひどくなりやすい。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問47

点眼薬の扱い方に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 点眼の際には容器の先端をまぶたにつけて薬液が確実に目の中に入るとよい。
- b 点眼後は数秒間まぶたを閉じ、目頭を軽く押さえるとよい。
- c コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行わないことが望ましい。
- d 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものがある。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問48

点眼薬の成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 メチル硫酸ネオスチグミンは、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- 2 フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウムは、視細胞が光を感受する反応に関与していることから、視力調整等の症状を改善する効果を期待して用いられる。
- 3 酢酸トコフェロールは、アミノ酸の代謝や神経伝達物質の合成に関与している。
- 4 コンドロイチン硫酸ナトリウムは、目の調節機能を改善する目的で配合されている。

問49

ケトプロフェンに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 筋肉痛、関節痛、打撲等による鎮痛等を目的として用いられる。
- 2 重篤な副作用であるアナフィラキシー様症状を生じることがある。
- 3 抗ヒスタミン成分としても配合される。
- 4 ケトプロフェンが配合された外皮用薬は、副作用として紫外線により重篤な光線過敏症が現れることがある。

問50

グリチルリチン酸二カリウムに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 化学構造がステロイド性抗炎症成分と類似している。
- 2 大量に摂取すると、偽アルドステロン症を生じるおそれがある。
- 3 1日最大服用量がグリチルリチン酸として40mg以上となる製品については、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談する等、慎重な使用が必要となる。
- 4 医薬品にのみ使用が認められている。

問51

歯痛薬に含まれている成分のうち、殺菌消毒作用とともに抗炎症・局所麻酔作用も期待できるものはどれか。

- 1 フェノール
- 2 カンフル
- 3 ハッカ油
- 4 オイゲノール
- 5 サンシシ

問52

歯槽膿漏^{そうのうろう}薬に含まれている成分と配合目的に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

	成分	配合目的
a	グリチルリチン酸二カリウム	歯周組織の出血を抑える
b	グルコン酸クロルヘキシジン	歯周組織の炎症を和らげる
c	アラントイン	歯周組織の修復を促す
d	塩化セチルピリジニウム	歯肉溝での細菌の繁殖を抑える

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

問53

軟骨組織の主成分に由来し、関節痛や筋肉痛の改善を目的として使用するものはどれか。

- 1 グルクロノラクトン
- 2 ヘスペリジン
- 3 システイン
- 4 コンドロイチン硫酸ナトリウム
- 5 ガンマ-オリザノール

問54

滋養強壮保健薬に含まれているビタミンの副作用に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 ビタミンAは、下垂体や副腎系に作用してホルモン分泌の調節に関与しているため、その過剰摂取により生理が早まったり経血量が多くなったりすることがある。
- 2 ビタミンDの過剰摂取により、高カルシウム血症になる可能性があり、その初期症状としては便秘、嘔吐、腹痛等がある。
- 3 ビタミンB6の過剰摂取により、口角炎、口内炎、湿疹、手足のしびれなどが起こることがある。
- 4 ビタミンEの過剰摂取により、歯ぐきや鼻粘膜から大量の出血を引き起こすことがある。

問 5 5

腹部に皮下脂肪が多くて便秘がちな人における高血圧の随伴症状（動悸、肩こり、のぼせ）に適し、構成生薬としてカンゾウ、マオウ、ダイオウをすべて含む漢方処方製剤はどれか。

- 1 清上防風湯 せいじょうぼうふうとう
- 2 大柴胡湯 だいさいことう
- 3 防風通聖散 ぼうふうつうしょうさん
- 4 防己黃耆湯 ぼういおうぎとう
- 5 黃連解毒湯 おうれんげどくとう

問 5 6

一般用医薬品のうち、人体（手指、皮膚）の殺菌消毒に通常用いない殺菌消毒成分はどれか。

- 1 サラシ粉
- 2 グルコン酸クロルヘキシジン
- 3 イソプロパノール
- 4 エタノール
- 5 塩酸ポリアルキルポリアミノエチルグリシン

問57

殺菌消毒成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a エタノールは、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。
- b オキシドールは、過酸化水素を成分とし、発生する酸素の酸化作用によって殺菌効果を示す。持続性もあり応急処置として用いるとよい。
- c ポビドンヨードは、ヨウ素に対しアレルギーの既往歴のある患者には使用しない。
- d グルコン酸クロルヘキシジンは比較的広い殺菌消毒作用を示し、結核菌やウイルスにも効果がある。

- 1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d)

問58

消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 消毒薬は成分や濃度にかかわらず、全て医薬品としてのみ製造販売されている。
- b ウイルスに対して有効な消毒薬はない。
- c 微生物の中には、条件により消毒薬の溶液中で生存・増殖するものがある。
- d 有機塩素系殺菌消毒成分は、金属腐食性が極めて高い。

	a	b	c	d
1.	正	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

問59

次の殺虫剤の成分のうち、コリンエステラーゼ阻害作用を有するものはどれか。

- 1 ペルメトリン
- 2 フェノトリン
- 3 ジクロルボス
- 4 オルトジクロロベンゼン
- 5 メトプレン

問60

尿糖・尿^{たん}蛋白検査に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 食事その他の影響で尿が弱アルカリ性に傾くと、正確な検査値が得られなくなる
ことがある。
- 2 尿^{たん}蛋白検査では、激しい運動直後に尿を採取して測定する。
- 3 検査感度をあげるために、出始めの尿を採取して測定することが望ましい。
- 4 医薬品は肝臓で代謝されてから尿中に排泄されるので、検査値には影響しない。